

令和3年度 第3回 焼津市高齢者保健福祉計画推進協議会及び  
第3回 焼津市介護保険運営協議会（書面開催）

議題

- 1 令和3年度焼津市高齢者保健福祉事業と介護保険事業の実施状況について（報告）
- 2 令和4年度 焼津市介護保険事業特別会計当初予算について（報告）
- 3 令和4年度に実施する新規取組について（報告）

資料送付日

令和4年3月22日（火）

意見書提出期限

令和4年3月30日（水） 全委員より提出済み

協議会委員（敬称略）

被保険者

岡村正昭、金井富保、原孝恵、滝澤義雄、岩根知代、村松晶子、本村春枝  
学識経験者

石川英也、石田璃久磨、川合玲子、水野尚美

介護サービス事業者

久保田裕美、渋谷真紀、奥川清孝

被用者保険等保険者

巻田達央

## 委員からの意見

## 1 令和3年度焼津市高齢者保健福祉事業と介護保険事業の実施状況について

(村松委員)

## ●介護予防・健康づくりの推進

- ・コロナフレイルを予防するためにも、With コロナの生活様式の中での介護予防の工夫が早急に必要です。

例えば、「ころばん体操」を自宅で1人でもできるよう動画配信をする、家庭で行える介護予防のための運動が書かれたシートを作成し配布するなど。

参考までに、私が関わっております高齢者支援を通じての現状と課題については以下のとおりです。

- ①コロナ感染予防のため、外出や交流の機会が激減し2年。コロナによる健康二次被害が顕著になってきました。フレイルの進行です。自宅内での転倒・骨折の件数増加、認知機能の低下を感じます。
- ②自主講座・社会教育団体活動（講座）の実施が計画の2/3の実施に留まりました。まん延防止措置期間中は中止となるため、令和3年度は延べ4カ月が中止でした。公民館主催の高齢者学級や社会教育学級、ミニデイなども、コロナ禍で開催回数が減り、高齢者の自宅での引きこもりが危惧されます。

## ●高齢者の生活支援の推進

- ・家族が認知症になった時の対応の学びの機会の必要性を感じます。

認知症の中核症状についての知識をお持ちの方は徐々に増えてきたと思います。

しかしながら、周辺症状について、またその関わり方の知識をお持ちの方は、まだまだ少ないのが現状です。

認知症ご本人の混乱や不安の増大、自尊感情のさらなる低下、周辺状況（BPSD）の出現の減少の可能性などは、ご家族の関わり方が大きく影響します。学習会などの機会提供により、周辺症状と関わり方の関連について広く周知されることを願っています。

(金井委員)

- ・基本方針6の7行目で「予防サービス費の支出が増えた」とあるが、具体的にどのような支出が増えたのか（項目、名称、支出額等）

⇒（介護保険課回答）

資料1、P6の基本方針6の表の令和3年度の列ですが、左が予算額で右が12月末現在の支出総額であります。

双方を見比べてみますと、支出総額が予算額を上回るものが見られます。

介護予防サービスでは、介護予防訪問リハビリテーションで641千円、介護予防居宅療養管理指導で62千円、介護予防短期入所生活介護で866千円、見込みよりも多くなっています。

また、地域密着型介護予防サービスでは、介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）で4,304千円、見込みよりも多くなっています。

なお、区分別の支払額が予算額を上回った場合は、他の区分から流用することにより対応し、事業全体では予算の範囲内で執行します。

(岡村委員)

- ・コロナ禍での事業推進は大変だと思いますが、現状を見る限りゼロコロナは考えられないため、ウィズコロナの事業推進を考えていく必要があるかと思います。それにより、令和4年度以降の目標値の見直しも必要と思います。

(滝澤委員)

- ・【基本方針2】「生きがいを持ち社会参加できるまちづくりの推進」でコロナ禍により社会参加を取り巻く環境が厳しくなっていますが、健康について、特に認知症予防について寿大学による講演に受講者は積極的に取り組んでいます。会員の減少をくい止めるべく、各地域での加入促進活動を展開しておりますとともに、活動推進相談員により退会する会員を止めるべく努力をしています。個人加入という地域に属さない会員等の増強をしております、減少はくい止めるようにしています。個人の価値観もないわけはありませんが、高齢化による役員の成り手がいないことが問題となっています。

(岩根委員)

- ・フレイルの予防は訪問リハだけではなく、各家庭にチラシや他の方法ですすすめることもできるのではないかと思います。集団でできることは目に見えて実態把握可能で数値化もしやすいけれど、集まれないときの関わり方や調査も含めアンケート等は有効と考えます。  
実態調査のアンケートはニーズの把握に大切だと思うので、誰もがわかりやすくしていただけたらと思います。

## 2 令和4年度 焼津市介護保険事業特別会計当初予算について

(岡村委員)

- ・介護給付費の増額を基金の取り崩しで補っているようですが、基金残高は潤沢にあるのでしょうか

令和5年度以降の見通しは立ちますか。

⇒ (介護保険課回答)

基金残高についてですが、令和4年3月末現在で約8億4千万円ありますので、今後も介護保険事業を安心して継続できると考えています。

(滝澤委員)

- ・【基本方針4】の高齢者の外出支援サービスは、本当にありがたい支援だと思っています。ただ、高齢化は毎年進んでいく中で、増加していくことは仕方のないことなのですが、是非これは続けていってほしいと思います。

## 3 令和4年度に実施する新規取組について

(村松委員)

●焼津市高齢者実施調査、介護予防日常生活圏域ニーズ調査

- ・大変重要な調査だと思います。ありがとうございます。

可能でしたら、コロナフレイル予防策模索のために、早急にICT活用のため的高齢者向け調査もお願いできたらと思います。調査結果によっては、アクティブシニア及び要支援の方向けに、ICTを活用した介護予防も可能かもしれません。

参考までに、私の開催する講座を受講してくださっている高齢者の方にアンケート調査を行っている最中で、サンプル数が少ないのですが、ここ1～2年で、高齢者のスマートフォン保有率が急激に上がっています。それに伴い高齢者のLINE活用率もアップしています。操作の仕方が分かればオンライン講座を受講してみたい高齢者も多く驚きました。

●チームオレンジコーディネーターの配置

- ・素晴らしい取り組みだと思います。期待しています。

(金井委員)

- ・おみね輪プロジェクトとは、具体的にどのようなものか。

⇒ (地域包括ケア推進課回答)

平成29年度から始めた、行方不明になる認知症高齢者の早期発見を目的とした対策で、スマートフォン上の専用アプリを活用して地域で認知症高齢者を見守るもので「おでかけ見守りネットワーク」の通称です。

ご家族が事前に認知症高齢者の情報を市に登録し、その情報を焼津警察署、地域包括支援センターで共有するとともに、行方不明の際には、アプリに登録した協力者に、捜索協力を依頼するしくみとなっています。

具体的には、認知症高齢者の衣服や所持品に、専用フリーダイヤルが記載されているステッカーを家族が貼ることで、発見者が専用フリーダイヤルへの架電により家族と直接連絡を取りあえるほか、アプリをダウンロードした協力者に対し家族が、行方不明者の情報を提供し、発見につなげていくものです。

- ・チームオレンジを市内全域に作るとあるが、現状と比して可能かどうか。当面、モデル地区などの設定などの工夫も必要ではないか。

⇒（地域包括ケア推進課回答）

チームオレンジの立上げについては、既に2つの圏域で3つのチームが立ち上がっており、まだチームがない圏域においても、立上げに向け動き出している団体を複数把握しております。そのため計画期間中に全域での立上げを目標としました。

立上げに際しては、既にあるチームオレンジの活動を参考にできるよう、広く発信していくほか、チームオレンジの立上げや運営を支援するチームオレンジコーディネーターを新たに配置し、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員とともに地域の通いの場を活用するなど様々な方法を試行して進めていきたいと考えております。

（岩根委員）

- ・（「高齢者実態調査及び介護予防日常生活圏域ニーズ調査委託」、「チームオレンジコーディネーターの委託」について）委託はどこに誰に委託されるのか。委託先を明確化してほしいです。

⇒（介護保険課、地域包括ケア推進課回答）

令和4年度に実施する予定ですので、現時点では、委託先は決まっておりません。

- ・この委託料は資料2のどの項目からの支出ですか。

⇒（介護保険課回答）

委託料の支出項目ですが、資料2のうち、介護保険課の高齢者実態調査、介護予防日常生活圏域ニーズ調査委託料については、総務費からの支出となります。

また、地域包括ケア推進課のチームオレンジコーディネーターの配置に伴う委託料については、地域支援事業費からの支出となります。

（滝澤委員）

- ・チームオレンジコーディネーターの配置について、地域で認知症の人とその家族の見守りのしくみづくりは、是非市民にわかりやすい配置をしていただくよう要望致します。
- ・どこに地域コーディネーターが居るかわかるようにしていただきたいと思います。